

営農情報



「あまおう」11月の管理

第29号 平成26年11月7日

南筑後普及指導センター
福岡大城農業協同組合

定植後の乾燥傾向、朝晩の冷え込み等により、展葉が遅く、緩慢な生育になっています。また、台風の影響でマルチの被覆が遅れたほ場も見受けられました。

10月下旬の生育状況(頂果)は、Ⅳ型で出蕾～開花、Ⅴ型で出蕾、普通ポットであと1枚で出蕾となっています。2番果房については、10月に入って気温が下がったことにより分化が進み、普通ポット以外は昨年より分化率が高くなっています。早期作型では、昨年より少ない内葉数5～6枚で分化、普通ポットでは内葉数3～5枚で分化で、1～2番間の収穫はある程度連続することが予想されますが、ハウスごと、株ごとによりバラつきが大きいようです。

病害虫についてはヨトウムシ、スリップス類の発生が見受けられます。また、本年度はうどんこ病が育苗期に多かったため、ビニル被覆後は発生が懸念されますので防除の徹底をお願いします。

11月は、厳寒期に向けた株作りの時期になりますが、理想の草勢になるよう早めの管理をお願いします。

【作型別2番果房花芽分化状況】(南筑後普及指導センター管内)

平成26年度(検鏡日:10月10日～22日)

作型	調査株	分化率(%)	早進株
Ⅲ型	91	50.5	7
Ⅳ型	133	39.1	7
Ⅴ型	23	69.6	7
普通	23	17.4	2

※ 早進株は果房間葉数が3枚以下で分化したもの

平成25年度(検鏡日:10月10日～22日)

作型	調査株	分化率(%)	早進株
Ⅲ型	124	19.4	9
Ⅳ型	94	9.6	2
Ⅴ型	39	20.5	1
普通	59	38.6	15

※ 早進株は果房間葉数が3枚以下で分化したもの

今後の管理

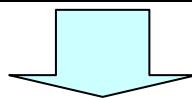
草勢管理について

11月は1番果房の着果負担がかかるため、“成り疲れ”させないよう草勢を維持（心葉展開時の葉柄長により判断）することが重要になってきます。

【心葉展開時の葉柄長等による草勢判断】



草勢	弱い	適切	強い
心葉の葉柄長	8cm以下	10～12cm	13cm以上
心葉の色	濃緑色	緑色	黄緑色



電照時間	時間を長く	現状維持	時間を短く
------	-------	------	-------

・電照は、11月5～15日から2時間で開始し、その後は、心葉展開時の葉柄長を目安に時間を調節する。ただし、頂果がすでに着色期の場合は、着果負担が大きくなっているため11月5日から開始する。

※電照効果は1週間～10日後に現れるので、着果負担など生育を予想して時間を調整する。

※11月下旬から12月上旬にかけては、3番果房の花芽分化期と考えられるため、生育旺盛になりすぎないように注意する（3番果房の花芽分化が遅れる可能性があるため、心葉展開時の葉柄長は最大でも15cm程度にする）。

温度管理

・着果状況に応じて、温度管理を変える。株が小さく生育が遅れている場合は、高めの温度管理を行い生育を促進する。収穫中は低めの管理とし、果実肥大を促し品質向上を図る。

・外気の夜温が10℃を下回るようになったら、ハウスを閉め込む。（通常11月中旬）

【1番果房の生育状況別温度管理の目安】

頂果の状況	昼間	夜間
～着果期	26～28℃	10℃
着果期～白熟期	24～26℃	7～10℃
白熟期～収穫期	20～24℃	5～7℃

摘果

- ・摘果は、2番果房の出蕾を確認して、作型・生育状況に応じて行う。
- ・1～2番の果房間葉数が2枚程度の「早進株」を認めた場合は、草勢維持のために強めの摘果を行い、2番果房と合わせて1株当たり10～12果に着果数を制限する。
- ・着果数が多い場合、小果が不受精になりやすく株も弱りやすい。

【 1番果房の摘果後の着果数の目安 】

2番果房の出蕾時期	1番果房の収穫前	1番果房の収穫期間中	1番果房の収穫終了後
1～2番果房間葉数	4～5枚	6～8枚	9枚以上
1番果房の着果数	7～9果	10～12果	枝花のみ摘果

かん水・液肥

- ・かん水や液肥は、草勢が低下しないよう定期的に行う。
- ・かん水の目安として、pFメーターを設置しているほ場では、pF値1.7～8で管理する。ハウス内の極端な乾燥は、生育遅れとダニ発生拡大の原因となります。
- ・液肥は、窒素成分で月に1～2kg/10aを、2～3回に分けて行う。
(液肥開始の目安 早期:収穫始め、普通期:頂果親指大以降<11月下旬以降>)
生育が悪い場合は早めに行う。

玉出し・わき芽除去

- ・頂果の着色が開始する前までに、軽く玉出しや葉よけを行う。無理な玉出しを行うと果梗を折る原因となり、食味が極端に悪くなるため注意する。
- ・玉出し作業と同時に、わき芽やランナーを除去する。

発根促進

- ・イチゴの根は、収穫開始とともに弱っていき(白根が少なくなる)、“成り疲れ”の原因となる。発根促進剤(チャンス液、パフォームソイルなど)を活用し、できるだけ多く発根を促す。

病虫害について

○ うどんこ病

- ・今年度は、育苗期にうどんこ病が多く発生していました。また、防除が不十分なほ場では既に発病しているほ場が確認され、平年より多い状況です。
- ・ビニル被覆後は特に発生しやすくなるので、定期的に農薬の予防散布を行う。

○ 灰色かび病

- ・一度発病すると防除が困難であるため、定期的に農薬の予防散布を行う。
- ・発病果実や発病葉は、見つけ次第除去する。

○ ヨトウムシ、オオタバコガ

- ・防除が遅れたほ場で、被害がみられる。年内は、定期的に防除を行うようにする。

○ スリップス

- ・年内に飛び込んできたスリップスを防除し、ハウス内で越冬させないことが重要である。

○ ハダニ類

- ・葉裏にしっかりと薬剤がかかるように、丁寧に散布する。
- ・一番果房収穫後の防除を徹底する。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！